

令和6年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立湖南中学校

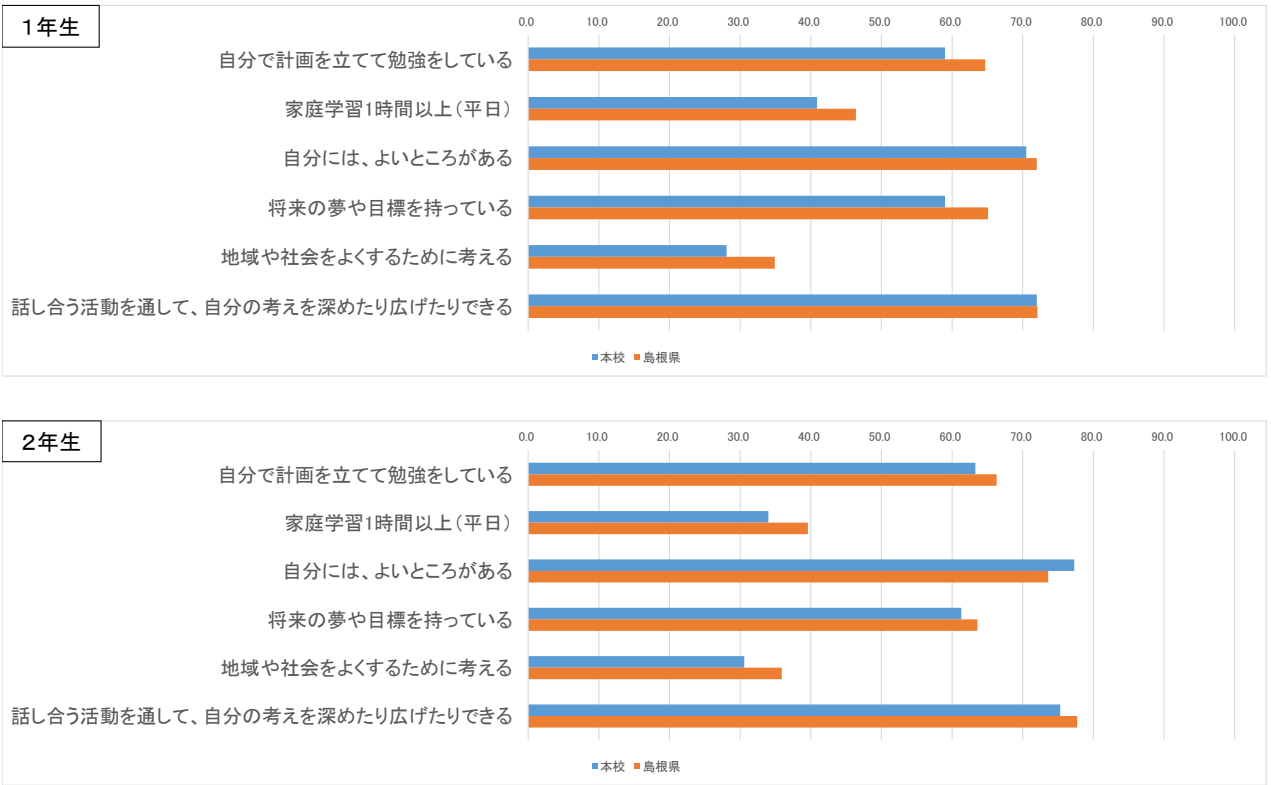
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○話すこと・聞くこと、書くことなどの項目で正答率が高く、書くことについてのスキルが半数程度ではあるが定着しつつある。漢字を読むことについても全国平均よりは低いものの、目標値よりは高く、定着しつつある。 ●文章の読み取りについて、正答率が全国平均同等であった。文章の構成を理解したり、意見と根拠、指示語を正確に読み取ったりすることに課題が見られる。	○漢字や行書の特徴に関する問いの正答率が高く、漢字や語句に関する知識が定着しつつある。文学的文章の表現の効果について理解している割合が高い。 ●記述問題の正答率が低く、与えられた条件に合わせて長い文章を書く力に課題が見られる。特に、資料の情報を読み取り、複数の情報を整理して自分の考えを伝えることに課題が見られた。
数学	○比例・反比例や図形分野では目標値と同等か上回ることができていた。 ●正・負の計算と応用問題の分野の数値が目標値より下回っていた。問題を読み取り正確に表現することに課題を感じた。	○1次関数の分野では目標値を上回っていた。 ●式の計算と応用の応用問題の分野の数値が目標値より下回っていた。問題を読み取り正確に表現することに課題を感じた。
英語	○whoseを用いた疑問文の語順について理解している割合が高い。授業で習ったすぐの事項については、口頭練習を多く取り入れていることから定着していると考えられる。 ○自分の好きな季節について、相手に伝えるように書いている生徒の割合が高い。自分のことを伝える際に、易しい語彙を使って表現しようとする姿勢がある。 ●ほとんどの設問において、目標値に届いていない。授業で習ったことを反復して学習する習慣が付いていないと考えられる。	○リスニングの正答率が比較的高い。基本的な聞き取りはできており、授業での音声教材や繰り返し聞く活動が定着していると考えられる。 ○語彙・語法の知識・理解の正答率が比較的高い。基礎的な単語や文法の定着度が一定水準にあり、定期的な小テストや確認テストが有効に機能していると考えられる。 ●書くことの正答率が低い。特に3文以上の英作文や場面に応じた英作文の正答率が低く、文章の構成を考えながら表現する力が不足していると考えられる。短文から徐々に文章を広げる練習を増やし、書くことへの抵抗感を減らす工夫が必要。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	○「自分が住んでいる地域が好きである」という質問に肯定的な回答をしている生徒が多い。総合的な学習の時間で、地域の良さについて考えたり調べたりする学習を取り入れている成果と考えられる。 ●「夜は、時間を決めて寝ている」「自分で時間を決めて、テレビを見ている」という質問に当てはまらないと回答している生徒が多い。自分の生活リズムをコントロールして過ごすという意識がやや弱いと思われる。	○自分には良いところがあると回答した生徒の割合が県平均を上回っていた。毎日のスピーチ活動や、授業内でのグループ学習、他の人の良い所がしなど自己肯定感を高める活動を多く取り入れた成果と考えられる。 ●家庭学習1時間以上（平日）の生徒、地域や社会をよくするために考えると回答した生徒の割合が県平均を下回り、学習時間の確保と、社会に貢献する活動などに目をむけさせることが課題といえる。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R6学力調査受検者数】 1年生 141 名 2年生 150 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)